

平安時代から二二〇〇年の歴史 後世へつなぐ丹波篠山茶

長い歴史と共に、今も発展を続ける丹波篠山茶の魅力と「第42回 大国寺と丹波茶まつり」について、お話を伺いました。



リポーター 畑弘恵さん

兵庫県内最大の栽培面積 日本最古のお茶どころ

丹波篠山茶の歴史は古く、815年（弘仁6年）に嵯峨天皇が丹波・近江・播磨に茶を植えさせたことが始まりとされています。約1200年の歴史を持ち、平安時代に朝廷に献上され現在に至る、日本で最も古い茶産地の一つです。江戸時代には大阪の市場で流通するお茶の半分が丹波篠山茶で、篠山の収入の多くを占めていたと言われていました。今でも市内では味間地区を中心に、お茶畑が引き継がれ、兵庫県内で最大の茶葉の栽培面積を誇る、県内随一の産地となっています。

味間地区では「茶工場」がピーク時には13カ所ほどありましたが、現在は3カ所のみ。お茶の生産を後世へつなぐため、2012年に市の茶生産者70人が集まり、JA丹波ささやまの支援で「丹波篠山茶生産組合」を立ち上げました。今では50軒余りの組合員で生産に努めておられます。

丹波篠山茶の特産振興

近年、日本食ブームの影響や健康志向の高まりによって、日本茶は世界でも人気を高めています。特に世界で活躍するプロスポーツ選手が、「日本の魅力的なお茶文化を世界に広めたい」と企業のグローバルアンバサダーとして世界に発信しており、さらに日本茶の人気も期待されています。

丹波篠山茶は近年特産化が進み、さまざまなところで需要を伸ばしています。学校給食では、お茶パンや、茶ノベーゼソース、新茶のかき揚げなど、お茶のうまみを生かした献立が提供されます。また、観光資源の一つとして、丹波篠山茶体験など、味だけではなく、お茶を通じた文化や風景、さらには人と人とのコミュニケーションで、人気を高めています。



給食で提供された手作りお茶ふりかけ



丹波茶壺道中には5年ぶりに、子どもたちが茶娘などに扮装して参加



尺八を奏でる虚無僧を先頭に、茶の里会館から、30分かけて大国寺へ新茶を献上する丹波茶壺道中



まるいの&まめりんも撮影会で大人気



第13代観光大使による茶娘



手揉み体験



茶摘み体験



新茶を入れた茶壺かご



薬師の餅まきも大盛況

地域も人も元気にする 「大国寺と丹波茶まつり」

丹波篠山茶のおいしさやお茶の文化をPRし、地域を活性化させるため開催される「大国寺と丹波茶まつり」。新茶のふるまい、茶摘み体験、摘み取った茶葉の手揉み体験など、お茶の魅力にふれることができます。

伝統的な「丹波茶壺道中」では、5年ぶりに子どもたちも参列し、注目を集めました。また、茶畑では、観光大使による茶娘写真撮影があり、たくさんカメラマンでにぎわいました。

コロナ禍明けの2022年からは1日みの開催。高齢化も進むなか、地域の負担を軽減されたことで、疲弊しない、より活発なイベントの実現をめざされました。主催の田中淳夫実行委員長は、「さまざまな課題もあるが、開催すれば丹波篠山茶を通して、地元住民をはじめ、集まった多くの人が笑顔で喜んでくださる。それがとてもうれしくやりにいなる。丹波篠山茶のパワーでさらに特産振興、地域活性化に努めたい」と話されました。



「第42回大国寺と丹波茶まつり」実行委員長 田中淳夫さん

茶まつりを盛り上げるため
地域の若い力も集結！！



味間奥青壮年部のみなさん

丹波篠山茶のおいしさ 地域の文化、後世へ

丹波篠山は昼夜の気温差が大きく、また土壌が肥沃のため、茶が養分を蓄えやすい環境が整っています。

また、丹波地方特有の「丹波霧」によって日光がさえぎられることで、甘み・うまみの凝縮された茶に育つそうです。

茶まつりでふるまわれた新茶は、ふっくら甘みを感じ、まろやかでまさしく極上の味わいでした。このお茶のおいしさに集まった人は約3000人。リピート率も高く、丹波篠山茶ファンの多さに驚きです。地元一丸となって茶まつりを盛り上げる様子に、後世への期待も高まります。来年は丹波篠山国際博の一つとして開催されます。さらに世界に広がる丹波篠山茶の取り組みが楽しみです。

